



2011.12.20 創刊号

発行 泊原発の廃炉をめざす会

〒001-0032札幌市北区北32条西6丁目1-10
サスティナブルシティビル
TEL 011-594-8454
FAX 011-594-8455
URL <http://tomari.sakura.ne.jp/>
E-mail tomarihairo@gmail.com
郵便振替口座 02790-1-100850

提訴しました！

2011年11月11日、あの大地震と福島第一原発の事故から8ヶ月目に、私たちは、泊原発の廃炉を求める訴訟を起こし、札幌地方裁判所に提訴しました。原告は612人、弁護団68人というマンモス訴訟です。原告の大部分は道内在住の方々ですが、札幌市だけでなく、岩内町、共和町、余市町、小樽市など泊原発に近い地域はもちろん、釧路市、帯広市、函館市、幌延町など全道に及んでいます。女性のほうが多いのは、「子どもたちのために泊原発をとめよう！」というアピールに共感してくださったお母さんが多かったためでしょう。原告団長は、長年地元で一日もかかさず海水温を測り続け、温排水による

影響を明らかにしてこられた斉藤武一さん、弁護団長は、道警不正問題の追及や自然保護運動を精力的にされてきた、市川守弘弁護士が務めてくださることになりました。

私たちは、現在、定期点検で止まっている1号機、2号機の再稼働を差し止め、稼働中の3号機の速やかな運転停止と泊原発すべての廃炉を求めています。北海道電力を被告とする民事訴訟にしたのは、一日でも早く原発を止めたからです。損害賠償を求めるのではなく、原発が、それぞれの人生をふつうに生きる権利、すなわち人格権を奪っていることを提訴の理由としました。全国の原発と同様、泊原発には多くの問題があります。北海道電力は、泊原発の沖合で見つかっている多くの活断層のごく一部しか認めていません。また、高橋はるみ北海道知事は、泊3号機の再稼働を認めるにあたり、「泊を動かさなければ道民が凍死する」とすら言いました。原発がなければ電気が足りない、原発のコストのほうが安いといった言説の理不尽さを問えるのは、司法の場でしかないと思います。裁判を通じて、原発をめぐるさまざまなウソを明らかにできると思います。

最年少の原告は小学5年生の男子。「私達の未来を汚さないで」というプラカードを掲げた原告は中学2年の女子です。「泊原発の廃炉をめざす会」は、この訴訟を支えるために、1口千円の賛同金を送ってくださる方みんなで作る会です。どうか郵便振替口座に何口でも送ってください。私たちも、大間原発訴訟団はじめ、全国の原発訴訟団を応援し、連帯していきます。

「泊原発の廃炉をめざす会」共同代表 小野有五

泊原発の廃炉訴訟を進める新役員です。

原告団長：斉藤武一 副団長：常田益代（北大名誉教授）
弁護団長：市川守弘 弁護団事務局長：菅澤紀生
「泊原発の廃炉をめざす会」共同代表：小野有五（北大名誉教授）
・宮内泰介（北大教授）・清水晶子（植物画家）
事務局長：樋口みな子（「銀河通信」主宰）



左からブルース・ダーリング副団長代理、小野有五共同代表、斉藤武一原告団長、市川守弘弁護団長

泊原発 廃炉訴訟 提訴記念講演会



11月13日(日)、札幌市民ホールで開催された提訴記念講演会は720人の会員、市民が参加し、泊原発を廃炉にしよう！と盛り上がった一日になりました。

原告や賛同者ら40人が朝早くから会場に集合し、配付資料の折り込みや受付、設営の準備を進めました。



「昔、原発というものがあった」池澤夏樹さん

基調講演は池澤夏樹さんの「昔、原発というものがあった」です。

核エネルギーを持った社会は滅びると言われていたが、今までのエネルギーとは7桁も違う。万一事故が起こったらとてつもない事故になるのは当然だ。アメリカのアイゼンハワー大統領は原子力の平和利用を唱えたけれど、それは核武装とつながっていた。原発は平和利用だと推進されたが、安全でないことが分かっていたから、ことさらに安全が強調されたのではないか。東海村に見学に行った。パンフレットに



は固い、丈夫な、密閉、がんじょうな、気密性の高い、厚い、しゃへいという言葉が羅列されていた。事故が起きる前提が最初からないのが原発。ひたすら嘘をつき続けた結果が今回の事故。東京電力は想定外の津波が来たからと言ったが、800年前に大きな津波はあった。地震で壊れたのではないか。原子炉には無数の配管が通っている。原発は人間の手には負えないのだ。北海道には風力や太陽光もある。風力による低周波騒音やバードストライクなどの問題点も鳥が嫌う超音波の警戒音を出すなど、解決の方法があるのではないか。社会や技術は人間の意志で変わります。「昔、原発というものがあった」と笑って言える時代に舵を向けていきましょうと結びました。

「子どもたちのために、北海道の未来のために、泊原発を止めよう！」共同代表小野有五



「子どもたちのために、北海道の未来のために泊原発を止めよう！」と講演したのは小野有五共同代表です。

津波の波高と遡上高は違う。10mの津波が38mまで遡上する。大地震の原因はプレート運動で、プレートの境目で大地震が起きる。4つのプレートがぶつかっているのは日本だけだ。



こんな場所に原発は作ってはいけない。4つのプレートが重なっている静岡県浜岡原発がもっとも危険。80年代までは日本海側は安全だと思われていたが、日本海中部地震、北海道南西沖地震で日本海側にもプレートの境界があることが明らかになった。北電が調査しているが、泊原発から30km圏内では活断層が急に消える、そんなおかしなことが各地の原発周辺である。東洋大の渡辺さんは変動地形学の視点から、泊原発近くに活断層を指摘しており、M7.5以上の地震が起きる可能性がある。原発より命が大事。力を集めて泊原発を廃炉にしましょうと結びました。(要旨)

メッセージから



児童文学者として、アイヌ民族として、それぞれの立場から6人の方が泊原発の廃炉への強い願いを語りました。原告の宍戸隆子さんのメッセージを紹介します。子どもを守るために6月に福島県伊達市から札幌に来ました。原発事故は、土地、家、暮らしを奪いました。人と人との絆も奪いました。コミュニティも失いました。今後は健康被害も心配。私の生まれた所は富岡町で福島第2原発がある場所です。福島にいる人々を守りたいのです。これからも札幌で受け入れて下さい。福島で起きた事故は必ず北海道でも起きます。北海道は希望の大地です。どうか泊を止めてください。

斉藤武一原告団団長の提訴集会アピール「原発のない、新しい北の大地をつくっていきましょう」と九子美佳さんが代読して閉会しました。(まとめ 樋口みな子)

各地で講演会を開き、原告・賛同人を増やしました

7月7日：泊原発廃炉をめざす会 発足式 かでる2・7で設立集会 330人参加
 8月6日：「泊の活断層について」東洋大学渡辺満久教授による講演会
 かでる2・7 参加者150人
 8月11日：共同代表小野有五による講演会 俱知安町労働会館 参加者120人
 8月17日：共同代表小野有五による講演会 余市町中央公民館 参加者80人
 8月18日：共同代表小野有五による講演会 江別市野幌公民館 参加者約60人
 9月3日：共同代表小野有五による講演会 小樽市生涯学習プラザレピオ



9月27日：共同代表小野有五による講演会
 千歳市民文化センター3階会議室 参加者33人
 9月29日：「泊原発3号機検査記録改さんの真実」
 元・原子力安全基盤機構検査員が実名で告発
 藤原節男氏による講演会 エルプラザ大ホール 参加者約100人
 10月9日：共同代表小野有五による講演会
 赤井川村 生活改善センター



10月8日：共同代表小野有五による講演会 岩見沢教育大 第4講堂
 10月8日：「3.11後のドイツと北海道のエネルギー」
 今泉みね子氏(在ドイツ・環境ジャーナリスト)の講演と総合討論：「北海道での脱原発への動き」共同代表小野有五、「北海道での再生可能エネルギーへの動き」鈴木亨氏(北海道グリーンファンド理事長)
 北大大学院地球環境科学研究所 参加者 約100人



10月13日：共同代表小野有五による講演会
 旭川・勤労者福祉館 参加者 110人
 10月16日：「10.16夕張新鉱事故から脱原発を考える夕張市民集会」共同代表小野有五による講演会
 ゆうばりはまなす会館 参加者110人
 10月19日：共同代表小野有五による講演会
 長沼町民会館 約50人参加
 10月28日：「大間原発訴訟団と小野有五教授による勉強会」
 函館市まちづくりセンター

11月10日：「子どもたちのために泊原発を止めよう」
 共同代表小野有五による講演会 主催／脱原発ネット釧路
 11月13日：「泊原発 廃炉訴訟 提訴記念講演会」札幌市民ホール 参加者720人(別掲)
 11月23日：「原発はコントロールできるか!? 原発の安全性に疑問を抱いた日」
 元原子力プラント設計者が語る
 杉山弘一氏による講演会 札幌教育文化会館 参加者130人
 11月27日：弁護団長市川守弘による講演会 帯広・十勝プラザ 参加者 約80人



11月27日：共同代表小野有五の講演会
 伊達市・NPO法人人智学共同体
 ひびきの村ホール 参加者 約30人
 11月29日：共同代表小野有五の講演会 岩見沢市民会館
 主催／憲法をかたろう会 参加者62人



元原子力プラント技術者の杉山弘一(すぎやま ひろかず)さんを講師に学習会が開かれました。「使用済み燃料」や「崩壊熱」などの意味が、原発の仕組みとともにわかりやすく説明されました。その上で、原発の運転(核分裂)を停止しても、既に貯まっている使用済み燃料をどうするかという大きな問題が残るが、だからこそ、今、廃炉までの道のり・廃炉後の道のりのための第一歩を踏み出し、これ以上問題を先延ばししてはいけないということについて説得力のあるお話がありました。「廃炉訴訟は、原子力政策を変えさせるきっかけであり、原動力である」という杉山さんの言葉が印象的でした。(弁護団 林千賀子)



12月3日：「Why we need to close the Tomari Nuclear Power?」
 講師：小野有五
 札幌ネイバーズ講演会(札幌在住外国人向け)
 参加者25人
 12月3日：「蜜バチの羽音と地球の回転」映画上映とトーク(小野有五)
 札幌シアター・キノ
 参加者30人
 12月5日：「持続可能なまちづくりをめざして」
 名寄市立大学(小野有五)
 参加者220人

裁判の日程が決まりました

第1回口頭弁論 2012年2月13日(月)午後2時
札幌地裁8階805法廷

原告から訴状内容に対する意見陳述を行う予定。傍聴席は80席。なるべく多くの傍聴席を用意したいのですが、一般傍聴者が多いときは抽選となりますので、ご了承ください。また、傍聴を希望する方は、廃炉をめざす会事務局(TEL011-594-8454)またはメールtomarihairo@gmail.comでお申込みください。当日は12時30分、弁護士会館前集合(札幌市中央区北1条西10丁目)。終了後に報告集会予定していますが、会場の都合でまだ確定していません。

第2回口頭弁論:4月か5月になる予定。

訴状を製本しました

原告になられた方には「Hairoニュース」とともに製本した訴状を同封します。一世帯1冊の送付としますが家族でそれぞれ必要な原告はご連絡ください。賛同人の方で、製本した訴状をご希望の方には送料込みで1,000円でお送りします。同封の振込み用紙に訴状希望と明記して下さい。

連絡会を作りました

■十勝の「廃炉をめざす会」会員で連絡会を作りました。地域の原告・賛同人の方は、下記へ連絡して、ネットワークをつくってください。

十勝連絡会/菅原哲也さん

☎0155-61-6133 hairo.tokachi@gmail.com

■長沼でも小野共同代表の講演会を機に「長沼・いのちの勉強会」を発足しました。

連絡先/飛島詩子さん

☎0123-88-4406 に問い合わせをお願いします。

会員は原告612人、支援1264人合計1876人です。(12/5 現在)

■未成年者で原告になっている方がいましたら至急ご連絡ください。

■住所変更をされた方はご連絡ください。

電話は午後4時30分まで、それ以降はFAX 011-594-8455をご利用ください。

会計報告 (2011年12月5日現在)

現在までの収入(入会・賛同金:11475口+カンパほか)計12,599,101円
おもな支出

・裁判原告印紙代	計	2,964,000円
・講演会開催費用	計	889,742円
・事務所維持費、コピー、発送・通信費 ほか	計	1,334,203円

12月5日までの残金:7,411,156円

・今後の支出予定 訴状・ニュース・封筒印刷代、送料等 85万円

(2011年12月5日現在:皆様のおかげで今は余裕がありますが、今後の裁判を支えていくには、まだまだ資金を集めねばなりません。よろしくご協力をお願いいたします。)

HAIROニュース創刊号をお届けします!

11月11日の提訴も終わり、ようやくみなさまに裁判の進行状況や訴訟の状況をお伝えするためのニュース・レターを発行することができました。このニュース・レターは「泊原発の廃炉をめざす会」が不定期に発行するもので、年4回の発行を予定しています。

送料や事務局の発送業務軽減のため、今後はメールでの発信となりますが、これからは紙媒体を希望する方は、通信費として年1,200円をお振込ください。

今後はメールで受け取る方は、メーリングリストにご登録下さい。ホームページ上の「HAIROニュース」配信希望欄からお申し込みできます。

提訴も終わり、事務局の仕事も軌道にのってきました。事務局3人での活動で行き届かないところもありますが、みなさまのご協力で原発のない安全な北海道のためにお手伝いをしてまいります。引き続きご支援をお願いいたします。

印刷で「HAIROニュース」を受け取りたい方は通信費年1,200円を同封の振込用紙でお振込ください。

メールで「HAIROニュース」を受け取る方は、HPの配信希望欄からお申し込みください。

ボランティアスタッフを募集します!

会員が1800人を超え、発送作業だけでも膨大な労力を必要とします。来年3月11日には震災から1年の大きなイベントを予定しています。多数の人手が必要です。発送、パソコン入力、イベントの受付、設営、カメラ、連絡網をつくって下さる方、イラスト等、得意な分野で会を支えていただけませんか?

TEL011-594-8454 FAX011-594-8455

メールnews@tomari.sakura.ne.jp にご連絡をお願いします。ボランティアスタッフとして登録します。



2011年11月11日提訴
「北海道電力泊原発所1号機
ないし3号機の廃炉等請求」訴状
1冊1,000円

2011年12月20日発行 「泊原発の廃炉をめざす会」事務局
(タイトルイラスト:堀川真 写真:市川利美・飯島 秀明 編集:樋口みな子)